

令和 2 年度における R P A の取組状況について

1 取組の目的

坂井市においては、市職員の「働き方改革」に向け、そのツールとなりうる R P A（ロボティック・プロセス・オートメーション）が持つ機能に着目し、令和元年度においてトライアル版（1ヶ月間ライセンス無料）を使用して、一部業務の自動化シナリオを作成したほか、第三次行政改革大綱実施計画に追加し、取組みを進めてきました。

令和 2 年度においては、坂井市も構成市の一つとなっている、「ふくい嶺北連携中枢都市圏」において R P A の共同研究を進めることとなり、他市の取組内容も参考にしながら、次年度以降の導入業務の拡大に取り組んでいくところです。

2 RPA・AI-OCRとは

- ▶ RPAは、人がパソコンで行う様々な操作を「ソフトウェア・ロボット」として「作成／記録」⇒「実行」させることで、煩雑な入力操作や大量データを扱う繰り返し処理などを、代行（自動化）させることができるツールです。
- ▶ AI-OCRは、紙に印刷された文字をスキャンすることで文字をデータに変換するOCRに、AI技術が組み込まれたもので、通常のOCRに比べ高精度でデジタルの文字データに変換できるツールです。
 - ▶ 別添「参考資料1及び参考資料2」参照

3-1 RPA導入の成果①

✓ 児童手当支給業務 : 坂井市 職員課

■ 業務概要

毎年6月下旬に児童手当の支給対象となる職員から提出される現況届に基づき、内容審査の上、手当額を算定し、支給額を決定する年次の業務。

■ 現行業務量

項目	業務量
処理件数	130件/年※1
現行業務処理時間	32時間00分/年

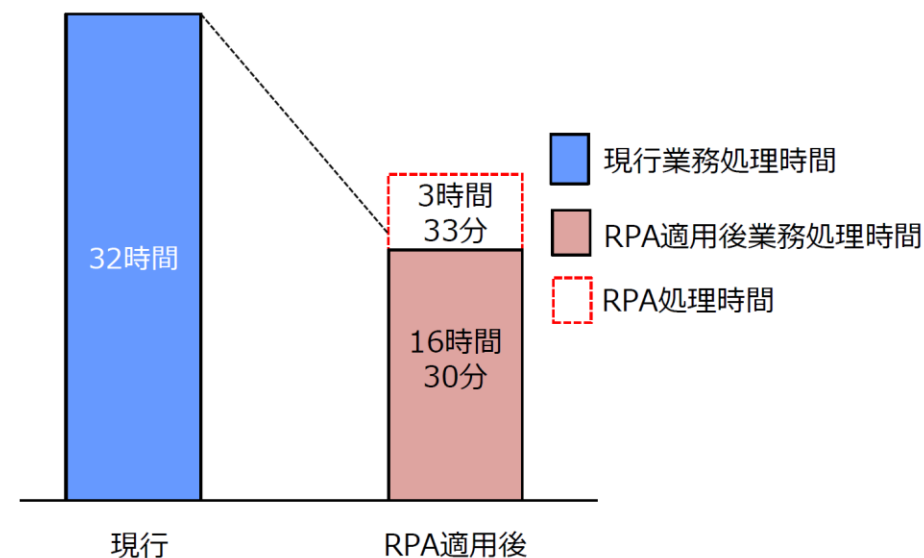
※1 2020年度の年次処理の実績

■ 結果に対する評価

- ・限られた期間のなかで処理しなければならない年次業務において、15時間30分の削減時間を実現できた。
- ・紙ベースで実施していた作業の一部をデジタル化することで、RPAの適用を可能にした。

■ 導入結果

年間削減時間**15時間30分**、削減率**51.6%**



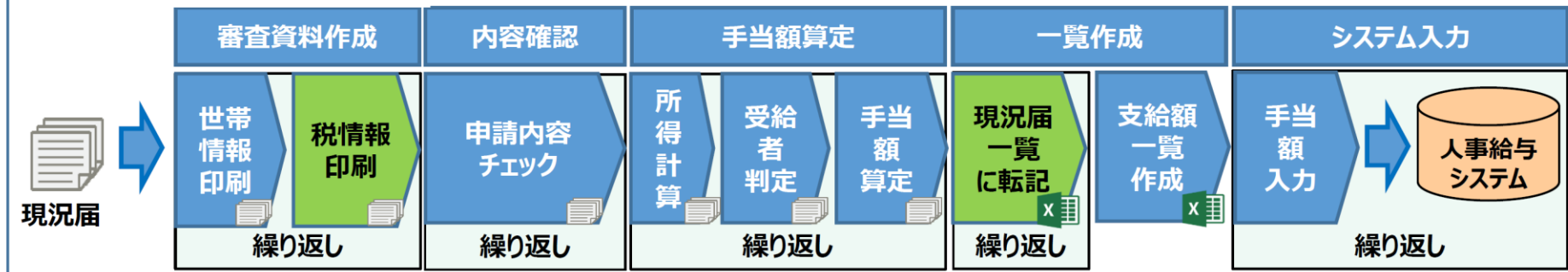
3-2 RPA導入の成果 ①

■ 導入前後の業務プロセス

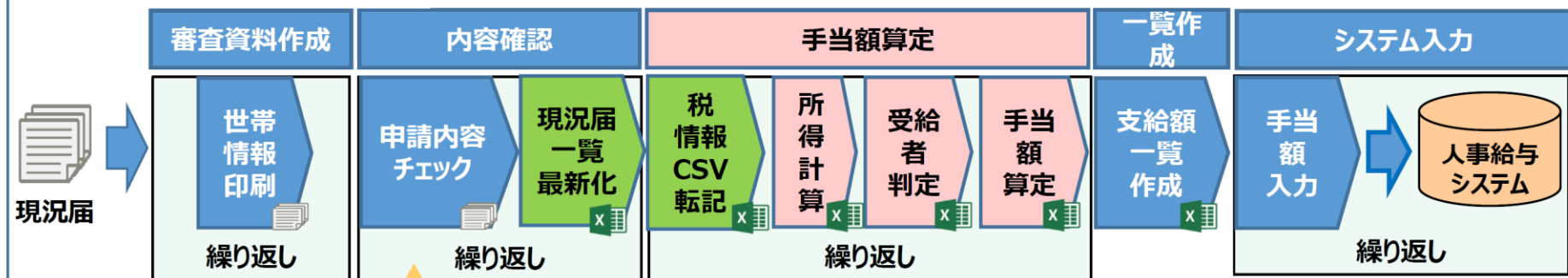
<凡例>



<現行業務プロセス>



<RPA適用後プロセス>



✓ Point

- ・紙・手作業として残る事務を業務の前半で実施
- ・その結果を現況届一覧（EXCEL）に反映し、以降の工程をデジタル化・自動化

↔ 今後、自動化が期待できる範囲

3-3 RPA導入の成果 ②

✓ 児童館・児童クラブ職員給与支払業務 : 坂井市 子育て支援課

■ 業務概要

毎月初めに、児童館・児童クラブの職員から提出される「勤務報告書（紙）」の内容に基づき、勤務時間の集計、給与支払額を算定し、財務会計システムに登録する月次の業務。

■ 現行業務量

項目	業務量
処理件数	2175件/年※1
現行業務処理時間	240時間/年※2

※1 2019年度の年間処理実績

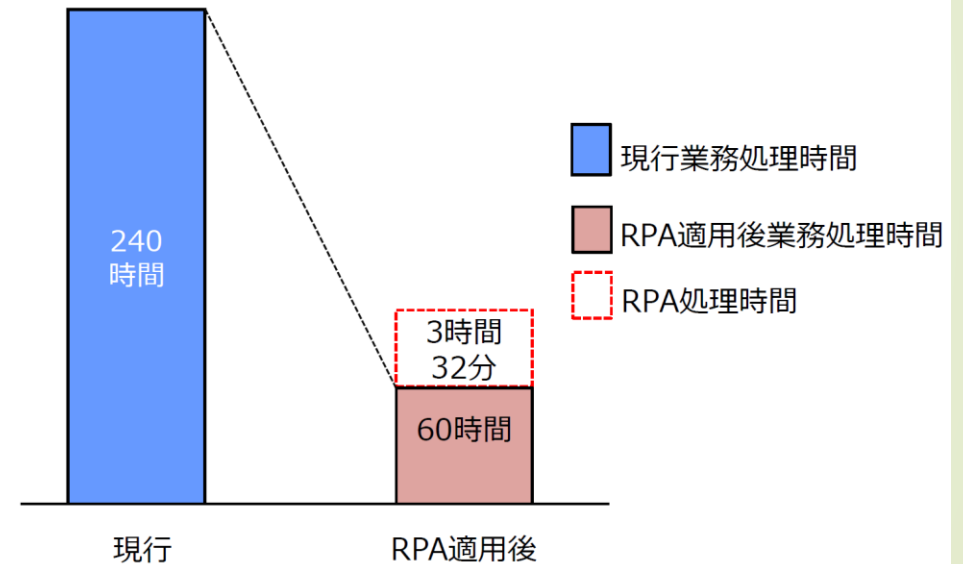
※2 効果測定における1か月あたりの業務量を年間業務量に換算

■ 結果に対する評価

- ・年間を通じて負担が大きい事務にRPAを適用した結果、削減時間は180時間と大きな効果につながった。
- ・RPAとAI-OCRの活用により手作業の大部分を自動化でき、削減率は75%と大きくなった。

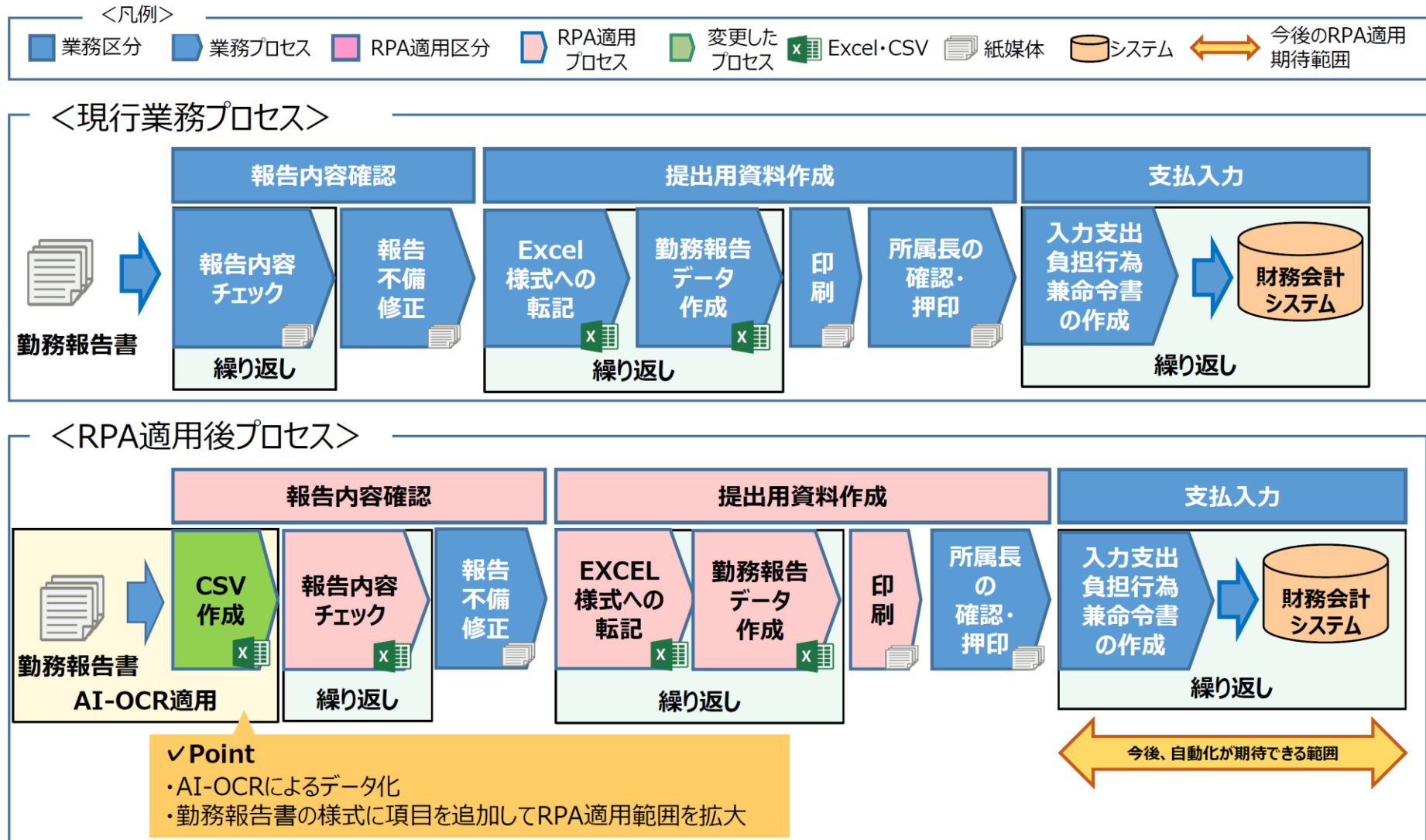
■ 導入結果

年間削減時間**180時間**、削減率**75.0%**



3-4 RPA導入の成果 ②

■ 導入前後の業務プロセス



4 RPA導入にあたっての課題

- ▶ シナリオ作成に時間・労力がかかる
 - ⇒削減時間以上に、シナリオ作成に時間がかかる場合がある
 - ⇒そもそも通常業務が忙しく、シナリオを作成する時間がない
- ▶ 処理するものがデータ化されている前提があり、今まで紙ベースで運用していたものを、データ化する必要がある
 - (例) 請求書の内容を手打ちでデータ化
 - AI-OCRの活用 (様式の統一)
- ▶ どの業務、どの工程にRPAを適用するか判断の難しさ
 - ⇒業務の知識に加え、RPA機能に関する知識が必要

5 令和3年度の予定

- ▶ 2業務程度の自動化シナリオ作成に取り組む
⇒各課より適用可能な業務を募集し、2業務程度に絞り込み
- ▶ 職員対象のRPA操作研修会の実施
- ▶ シナリオ作成の支援
- ▶ RPA取組状況の庁内周知

6

6 今後のRPAの活用について

★RPAを活用し、効率的に業務の省力化を推進するために

- 導入期
効果が上がりやすい「現行業務処理時間」が大きい業務を選定し、シナリオ作成経験者を増やす
- 展開初期
難易度の高いシナリオ作成にも取組み、対象業務を拡大
- 拡大期
多くの職員が、庁内の多種多様な業務にRPAを適用

